

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム・榎内

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200202		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・榎内		
所在地	〒027-0331 岩手県宮古市田老西向山119-16		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を尊重します。 ・家庭的でくつろげる場所を目指します。 ・介護技術の向上努めます ・明るい職場環境を作ります を方針とし、利用者には安心して過ごせる環境づくり、職員には、働きやすい職場環境づくりを目指している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮古市内から車で15分程度国道45号線を北上し、さらに2km程、海側に向かって走行すると以前のリゾート地が開けてくる。事業所は、東日本大震災津波後には仮設住宅が設置された近くに2014年3月に開所している。周囲は平坦であるが木々に囲まれ、高台に位置しているため、遠方には太平洋を望むことができ自然に囲まれ風光明媚である。事業所は、2階建ての吹き抜けで明るく開放感ある造りとなっており、室温や湿度には特に配慮して介護を実施している。食事は利用者の好みを考慮した職員手作りの食事が提供され、季節の行事の際には団子づくり等を一緒にするなど利用者の楽しむことができる工夫もされている。毎月、家族には利用者一人一人の様子を文章と季節の行事時に撮影された写真とともに、利用者個々に合わせ作成した「グループホーム榎内便り」という形で送付し、事業所内での利用者の様子がわかるように丁寧に作成され、家族からも好評である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が安心して過ごせる環境に努めます 心身の状況に合わせた援助を職員間で周知、サービスを提供している	法人の理念「ひとりの心を見つめるケア」に加えて当事業所の基本方針として4項目を追加作成し、申し送り等で利用者の状況を職員全体で共有の上、業務の中で理念を意識しながら介護している。運営推進会議の資料の次第に、毎回、理念や基本方針を記載し、法人内外関係者間での共有・意識向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は田老第一中学校の吹奏楽部の生徒様に演奏会を開催していただいていたが、コロナ感染症により交流が出来なくなりました	今年も中学校からは交流の問い合わせがあるが、コロナ感染の心配もあり、コロナ禍前のような中学校(演奏会)や高校(見学)との交流までには至っていない。地域の町内会への入会についても、努めて事務的なつながりを図ってはいるが、入会に向けて進んでいない状況である。地域の包括支援センターから情報提供をいただき情報源の一つとしている。	町内会加入については、運営推進会議に出席している民生委員等に橋渡しを依頼し、町内会とのつながりを深めながら入会に向けて地道に進めていくよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、利用者の日常生活など、質問に回答しながら地域の方へ行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、事故報告、月間行事などの内容活動報告を行っている 日常の様子や利用者が楽しそうにおやつ作りをしている写真などを掲載している	本年6月開催の運営推進会議から集合形式とし、初回では多くの委員の方に出席いただいた。参加を促している委員メンバーは、消防、警察、市、地域包括、訪問看護、地元の小・中・高校、民生委員等バランスよく構成されている。委員からは主に情報の提供がなされ、担当職員が議事録を作成し、申し送りの際に他職員には口頭で報告している。近隣のグループホームとは、相互に出席し情報交換が出来ている関係性である。	担当職員が議事録を作成していることから、参加できなかった職員に回覧することで会議への理解が深まること、また運営推進会議にも振り返りとして前回の会議録を添付することで委員からの事業所への理解や協力が深まると期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席していただいている 身近な地域情報やご意見をいただいている	市から運営推進会議には毎回出席いただくほか、事業所としての地域連絡会議への出席や必要時に担当者が出向き情報交換を実施している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・樫内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を尊重する 「拘束しない介護」の徹底を目標としている	身体拘束委員会は、同法人系列の他施設とともに合同で3か月ごと担当者同士具体的な情報共有等しながら開催している。その協議結果は職員会議でも話題提供されている。職員への研修会は、年1回職員会議終了後に職員自身が講師となり、スピーチロックの内容などを含めて開催し、資質向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に一度、2つの施設で話し合い情報の共有を行っている (特にスピーチロックや言葉遣いなど)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会を中心に会議を開き、職員会議で内容を周知、全職員が身体拘束防止に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書の内容に一通り目を通していただき、必要に応じて説明を行いご納得いただいてから署名をしていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用者ご家族へのお手紙で近況を伝えたり、ご意見・ご要望があればお気軽に仰っていただけるよう言葉を添えている	コロナ感染症のため現在でも面会に訪れる家族は多くはない。家族には毎月、利用者一人一人の生活状況等を写真入りで利用者個々に合わせ作成した「グループホーム樫内便り(担当職員のコメント入り)」で報告している。面会の際に、家族からは「ホームでの状況がわかり大変良い」と話され好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意見があれば申し送りで伝えたり、毎月の職員会議で提案している	朝夕の申し送りに加え、職員会議の場、そのほかでも職員の意見を聞く機会を設けている。職員の男女比率はほぼ同数であり、管理者を含め職員相互に話しやすい雰囲気である。事業所運営等よりも利用者へのサービス向上に関する意見が出され、最近では新規入居者の見守りの在り方について職員で共有した。	

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員間のコミュニケーションを図り働きやすい環境に努めているが、職員が不足している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	解らないところがあれば、その都度質問しやすい環境づくりをしている 職員会議で毎月内部研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で他のグループホームにも案内を出して出席していただき、先方の運営推進会議にも参加させていただいている		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ホームに慣れていただけるよう声掛けを多くし、安心できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話、お便りなどで要望等がないか、こちら側から伝えるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体、生活環境、ケアプランを把握しそれに伴った介護プランを立て実践している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事後の食器拭き等を行ったりと関係を築いている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にいらした時やお便り等でホームでの様子を報告したり、電話でも必要な物などご用意していただいている 面会の際、ご本人も笑顔で喜ばれている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大事にされている物などを居室に置いたり好きだった事などをホームで行ったりしている	コロナ感染症のため通院以外の外出がほとんどない状況が継続している。以前、施設内で大道芸を披露してくださった方から再び来所の連絡をいただき、近々再開訪問される予定である。同法人系列の事業所から利用者の友達2人が来所することもあり、交流が再開し始めている。玄関先での面会実施としているが、携帯を利用者2人が持っており、交流の良い手段となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席を気の合う利用者同士になるよう配置したり、お手伝い等で支え合いながら過ごせるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者を介して、社会やご家族との交流を図り相談があった時には快く対応するよう心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の声を聞くように心がけ、言葉の意味、行動の理由を多方面に考慮するように心がけている	自分の意思を伝えることができる方は、3、4人であるが、それ以外の方は時間をかけて問いかけることで意向を把握することができるため、全職員で全利用者の意思の丁寧な把握に努めている。必要時には家族と連絡を取り本人の希望や意向に沿う支援対応に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の特徴にできるだけ合わせ、一人ひとりにあつたケアを心がけている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・樫内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズム、習慣を把握し、ニーズに対応・予見できるよう心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画と共に、日々変化する状態を職員間で申し送りや日誌などで共有・対応している	ケアマネが計画作成責任者として介護計画を作成し、計画の見直しは基本6ヵ月ごとに実施している。計画作成責任者が、利用者の情報が収められているタブレット(各担当職員が日常的に利用者情報を入力)から状況の変化を確認するとともに、担当者からの情報も確認のうえモニタリングし、かかりつけ医、訪問看護師からの意見等も踏まえて計画作成している。その際、家族には事前に電話で説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員による日々の記録や、日誌などによる微細な情報の伝達等に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	習慣、体調等個々の入居者に合わせケアを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染のおそれがある為、通院後やホーム近くでの散歩を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが2ヶ月または1ヶ月に一度の通院となっており、1名はご家族で対応、他利用者はホームでの対応となっている	県立病院が協力病院となっているが、ほとんどの利用者は地元の診療所をかかりつけ医としている。定期受診には基本的には職員が付き添い、受診後は家族にも電話で説明、報告している。受診支援して下さる家族からは、受診後は職員に報告がある。そのほか、訪問看護ステーションから週2回ほど訪問看護師が来所し日常的な健康面の対応を受けている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師により利用者の健康管理が行われている 処置が必要な場合、看護師に相談しながら処方薬による対応を行い、医療行為となる部分は看護師に対応していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、ご家族の不安は退院後の帰所の事であるため、医師や地域連携室と相談し、ホームへの帰所が難しい場合は地域連携室より療養病院の手配を依頼帰所可能な場合は居室を保持している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一般的にグループホームにおける「看取り」は形式が確立されておらず、各事業所独自の形式を行政が監理・指導している形式である	入居時に重度化・終末期の看取りについて説明しているが、重度化が現実近づいてきた段階でも再度、指針を示し詳細(看取りにおける介護のフロー図)かつ丁寧に説明している。事業所での看取りを希望する場合は、地元診療所や訪問看護(夜間も連絡対応可能)と連携しながら穏やかな最期を迎えられるよう最善を尽くしている。最近では2名の方を事業所内で看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護に相談できるようになっている 指示をもらい、すぐに対応できるようになっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災避難訓練を行い災害時の内部研修を行っている	毎年、年2回(3月と11月)の火災避難訓練を実施している。夜間想定で日中訓練することも体験している。最近の台風時、断水があったことから2週間分の水と食料、暖房器具等は備蓄されている。夜間の方が一のことを考えると地域住民の協力を得ることが必要である。市のハザードマップ上の位置づけはない。	運営推進会議と同様に災害対策においても地域の町内会との連携が重要である。まずは、橋渡しを民生委員に依頼し、町内会とのつながりや近隣の住民、関係施設等との相互理解を深めながら、緊急時のお互いに補い合える関係性を持つことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った対応を職員同士で話し合いながら実践している	申し送りなどで気づいたことを情報共有し、職員間で考える時間となっている。利用者への言葉かけで職員が辛くなった時には、職員同士で気付き合い積極的に対応する職員を交代するなど、利用者、職員ともに人格を尊重した対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを傾聴し、できる限り希望に添えるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の事を第一に考え、その人に合ったペースで過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、ホームに床屋に来ていただき散髪や髭剃りなどの整容を行っていただいている ご本人が希望した服を選ぶようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いや嗜好に配慮して食事を提供している	職員が献立を考えて調理し、利用者の好みに配慮しながら3食提供している。利用者は、食器洗いやお盆を拭くことが日課となっており職員と協力しながら取り組んでいる。季節行事の際には利用者も一緒にできる献立(串団子・たこやき・流しそうめん・すつとぎつくりなど)を工夫し楽しんでいる。コロナ禍での外食はなかったが今後は、外食についても楽しみたいとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ水分摂取するようにしている 食事量が少なくなってきた利用者には、きざみ食やとろみ付け、おかゆなどで提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者は職員が介助しているが、できるだけご自身で口腔ケアを行えるよう支援している		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを行い、トイレ誘導を行っている 利用者に合わせたリハビリパンツや、必要に応じてパッドなどを使用している	排泄チェック表を利用し職員が声掛け誘導している。全員リハビリパンツ使用している。医療機関に入院中は紙オムツ使用した方も入所後は、職員の声掛けでリハビリパンツになるなど排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は、2名の方が自室にポータブルトイレを持ち込んで使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をできるだけ行うよう取り組んでいる 難しい場合は医師に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に体調確認の声掛けを行い、ご本人の意思や気持ちを尊重した介助を心がけている 入浴中も、洗身等できる部分はご自身で行っていただくなど本人の意向に沿った支援を行っている	週2回の入浴とし、アヒルの人形を浮かべ職員とのコミュニケーションの場となっている。入浴拒否の方や異性介助を嫌う方はいない。リフト浴は3名の方が対象となっている。利用者全員が入浴を楽しみにしており、安心して安全に入浴できるよう声掛けや意向に沿った介護をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールでの過ごし方やその時の体調に注意し、状況に応じて対応している 入床時は褥瘡予防のため体位変換の声掛けを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当の職員と連携し、薬の管理や服薬支援を行っている 処方薬の周知と誤薬防止のため、職員間で確認と声掛けを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事の際は、個々の機能に応じて役割を担っていただき、催し物を通して楽しみの時間を過ごしていただいている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・榎内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染のリスクがあるため、外出支援は行っていない	近くの桜の木を眺めに徒歩や車いすで2グループに分かれて出かけたり、車いすで近くの自動販売機まで出かける等の工夫をしているが、ほとんどの利用者は通院時の外出だけの状況である。令和3年度の自己評価後に目標達成計画「外出支援を定期的に行うことができる」を立案しているがコロナ禍のために達成できなかった。	事業所周辺の散歩等、手軽に行うことができる日々の支援のほか、自動車の効果的活用など法人の特性を活かした外出等についても、利用者の体調を考慮しながら支援できるよう、今後の工夫検討を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、各利用者の希望に応じて買い物を見せていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、利用者のご家族に日々の生活の様子をお手紙にして送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有空間に季節感のある飾り物を採り入れたり、空調設備にて適切な室温・湿度を保つよう配慮を行っている	共有のリビングや食堂は、吹き抜けになり明るく開放感あふれる空間となっている。エアコンや加湿器等で室温や湿度が管理され、過ごしやすい環境づくりが徹底されている。大きなテレビ2台が設置され、季節の飾り物や利用者の作品(書道)が飾られ、生活感あふれるリビングとなっている。利用者はテレビを見たり、職員と会話したり、新聞を見たり自宅にいるようにくつろぐことができる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者の意思を尊重し、居室で過ごしたい時、ホールで過ごしたい時など状況に応じて対応を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた物などを居室に置き安心して過ごせるよう配慮を行っている	個室のドアには、利用者の氏名と顔写真が貼られて表札代わりとなっている。室内にはベッド、パネルヒーター、タンスが備え付けられている。家族写真や時計、カレンダー等を自宅からそれぞれ持参し飾られ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫された居室となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・樫内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の居室扉に名前入りの写真を貼り、ご自身の居場所として安心していただけるようにしている		